

# 第17回環境地質学シンポジウム

主催：地質汚染－医療地質－社会地質学会



準主催：Japan Branch of GEM-IUGS

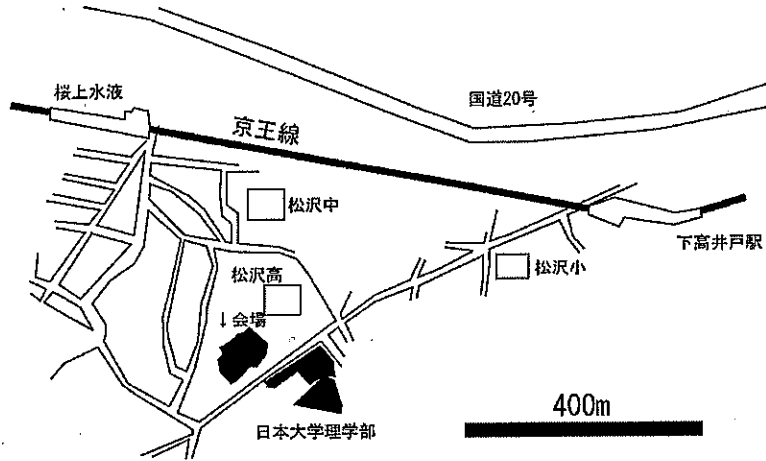
共催：日本情報地質学会、日本鉱物学会、(財)環境地質科学研究所、(社)全国地質調査業協会連合会、

内閣府認証 NPO 日本地質汚染審査機構、地質汚染診断士の会

開催日：2008年1月10日(木)・11日(金)

場所：日本大学文理学部 百周年記念館 国際会議場

最寄駅：京王線下高井戸駅もしくは桜上水駅 会場まで各駅から徒歩8分



参加費：一般参加費(論文集代含む)：5,000円(社会地質学会員以外 7,000円)

学生参加費(論文集代含む)：4,000円(社会地質学会員以外 5,000円)

※事前登録は必要ありません。共催及び協賛団体の会員に限り、非会員価格1,000円引き

2008年1月10日

1月11日

- 災害
- 10:00 表層付近の地質による地盤動の特徴(その3)  
加藤晶子(千葉県地質環境研究室)・酒井 豊・植田 隆
- 10:15 2007年能登半島地震の地質災害調査結果  
植田 隆(千葉県地質環境研究室)・風岡 修・古野邦雄・笠原 豊・川辺孝幸
- 10:30 2007年能登半島地震による輪島市門前町下地区の被災地における表層地質と家屋被害の関係  
川辺孝幸(山形大学地域教育文化学部)・風岡 修・古野邦雄・植田 隆・笠原 豊・柏木健司・野村正純・富岡伸芳・坂倉範彦・浜田定彦・浜田昌明
- 10:45 余震分布からみた内陸型地震発生の地質学的解釈—地殻の下方からの突き上げによる構造運動  
川辺孝幸(山形大学地域教育文化学部)
- 11:00 中越沖地震による建物被害と地盤変動  
小笠井衛(国土地理院地理地殻活動研究センター)・佐藤 浩・宇根 寛・矢野博司・飛田幹男
- 11:15 2007年中越沖地震の際の液状化—流動化被害調査結果—柏崎市長崎での液状化—流動化被害調査から—  
風岡 修(千葉県地質環境研究室)・川辺孝幸・古野邦雄・笠原 豊・岸 沙織・黒木 渉・植田 隆・奥山明洋・酒井 豊・高橋真理・竹内敦夫・宇留野元徳・渡辺真弓・吉田 剛
- 11:30 山地災害と環境破壊  
藤田 崇(関西地質環境研究センター)
- 11:45 総合討論(20分)
- 地下水管理
- 14:00 千葉県長生村—松海岸で起きた潮溜まりの白濁現象  
吉田 剛(千葉県地質環境研究室)・風岡 修・酒井 豊・古野邦雄・植田 隆・山本真理・加藤晶子・笠原 豊・飯村 晃・西川順二
- 14:15 千葉県掘削井における孔内地下水の深度方向の温度分布  
古野邦雄(千葉県地質環境研究室)・香川 淳・酒井 豊・風岡 修・吉田 剛・植田 隆・風戸孝之
- 14:30 地下水予測モデルの不確実性について  
藤崎克博(内閣府認証NPO日本地質汚染審査機構)
- 14:45 長瀬層と万田野層の層序関係—東京湾不整合について—  
藤田 寛(内閣府認証NPO日本地質汚染審査機構)・古橋俊剛・植井 久
- 15:00 総合討論(15分)
- 地質環境の変遷と大地の持続的利用
- 15:15 岡山ボーリングコアに見る花崗岩の割れ目近傍における変質プロセス  
西本昌司(名古屋大学)・吉田英一
- 15:30 新潟県魚沼丘陵における更新世中期—後期の赤色風化作用—赤色土の垂直分布と丘陵の形成史—  
仲川隆夫(環境地質学研究者)
- 15:45 富士山麓のボーリングコアによる富士火山活動史の時空解析  
奥水達司(山梨県環境科学研究所)・山本玄珠・内山 高
- 16:00 ベトナムナムディン省パッコック村における地形発達  
平山直信(横浜国立大学)・香山成子・中里裕臣・堀 和明・田辺 晋・Le Quoc DOANH
- 16:15 新潟県佐渡島における江戸時代初期の水田開発とその影響—環境地質学の立場からみた—  
仲川隆夫(環境地質学研究者)
- 16:30 東京都小池堆積物の球状炭化粒子・球状灰粒子からみた化石燃料燃焼史  
平川恵梨(大阪市立理化学部地球学科)・村上晶子・吉川周作・山崎秀夫
- 16:45 耐震性鋼筋コンクリートの付着部組成に対する凍結防止剤の影響  
武越通道(松江工業高等専門学校)・大塚 誠・安食正太・古川貴士・安達 良・藤永留美子・大田幸也・北川直樹・松崎晴彦・藤生裕彦
- 17:00 富山五福、富山大学校舎屋上における大気中ラドン濃度観測  
宇井啓高(富山大学名誉教授教育学部)・横田里奈・青木一真
- 17:15 大宮台地に分布する水層の圧縮強度特性について  
有井聡美(株式会社ジオ・コンサルタント)・中島啓良・野月平義則
- 17:30 腐食物質と金属元素の相互作用を活用した生態系修復の基礎的研究  
朝井 武(独)産業技術総合研究所地圏資源環境研究部門・大塚敬嗣・竹内英緒・福嶋正巳
- 17:45 総合討論(20分)
- 地質汚染・汚染浄化
- 18:05 印西市浦部地区の透水性別地下水のイオン濃度  
酒井 豊(千葉県地質環境研究室)・風岡 修・植田 隆・村越道弘・八旗明子・飯高次夫・吉田 剛・山本真理

- 地質汚染・汚染浄化
- 9:30 有機性地質汚染地域における地下水資源有効利用の試行  
榎山知代(株式会社テクノアース)・高島英世・池田秀史・植井久
- 9:45 北海道におけるヒ素の分布特性と集積機構  
辰巳健一(株式会社ドーコン)・堀内康光・新井田志穂・橋 裕国
- 10:00 重金属汚染の自然・人為由来の判定における存在形態別分析結果の適用  
堀内康光(株式会社ドーコン)・辰巳健一・重野久美子・新井田志穂
- 10:15 電子顕微鏡を用いた重金属汚染土壌解析  
高橋敏夫(洛菱テクノニカ株式会社)
- 10:30 千葉県旭市倉橋地域における水文地質単元と地下水の酸性・亜硝酸性窒素の簡易分析濃度  
吉田 剛(千葉県地質環境研究室)・古野邦雄・酒井 豊・風岡 修・植田 隆・山本真理・加藤晶子・笠原 豊・八旗明子・香川 淳
- 10:45 積雪寒冷地における砂礫層水層への硝酸浸透機構  
丸谷 薫(北海道立地質研究所)・高清水康博・高橋 良
- 11:00 千葉県富津市大塚山周辺の地質構造と水理特性との相関  
石橋正祐(名古屋大学大学院環境学研究所)・高島英世・榎山知代・藤田 寛・吉田英一・植井 久
- 11:15 地下水水位変動と有機性化合物の濃度変化—下総台地の地質汚染現場での例—  
植田 隆(千葉県地質環境研究室)・風岡 修・加藤晶子・酒井 豊・古野邦雄・笠原 豊・吉田 剛・山本真理
- 11:30 マルチスクリーン修復技術  
上砂正一(環境地質コンサルタント)
- 11:45 地下水汚染に関する浄化対策検討の事例  
青木勝宏(応用地質株式会社)・田中良郎・宇野嘉信・飯高次夫・藤田正彦・秋田昌寛・清水健一・風岡修 酒井豊・植田隆・八旗明子・西川順二・植井久
- 13:00 学会活動報告等
- 地質汚染・汚染浄化
- 14:00 印西市浦部地区での地下水汚染の浄化事例  
村越道弘(印西市市民経済部)・飯高次夫・藤田正彦・秋田昌寛・清水健一・田中良郎・青木勝宏・宇野嘉信・風岡 修・酒井 豊・植田 隆・八旗明子・西川順二・庄山公造・小倉孝之・植井 久
- 14:15 下総台地北部印西市浦部地区の透水性層区分と地下水質—新しい地下水調査法である地下水質層と地質単元—  
風岡 修(千葉県地質環境研究室)・酒井 豊・村越道弘・藤田正彦・植田 隆・笠原 豊・植井 久・清水健一・細谷 有・田田勝彦・秋田昌寛・石井 亮・青木勝宏・大塚敬嗣・伊藤孝和・濱本知英・田中良郎・安藤純一・鈴木真一・加来文隆・西川順二・庄山公造・小倉孝之・八旗明子
- 14:30 千葉県印西市揮発性有機化合物汚染現場における微生物による自然浄化について  
竹内英緒(独)産業技術総合研究所地圏資源環境研究部門)・風岡 修・酒井 豊・村越道弘・植田 隆
- 14:45 揮発性有機化合物汚染現場の微生物による自然浄化における堆積水層の役割  
竹内英緒(独)産業技術総合研究所地圏資源環境研究部門)・川辺能成・渡邊英治・大岩敏男・巖波謙二・磯形洋一・駒井 武
- 15:00 砒素吸着剤の性能とその利用方法  
富西賢一(株式会社アステック)・藤本真雄・高田史朗・和田信彦・和田信一郎
- 15:15 粘土鉱物を原料とした高性能吸着剤と環境浄化への応用  
栗嶋泰志(株式会社アステック)・藤本真雄・和田信一郎・富西賢一・口松 愛
- 15:30 植生浄化槽における水質浄化作用の基礎的研究  
河上博一(松江工業高等専門学校)・武越通道
- 15:45 地下水観測井の不具合に関する事例紹介  
平野節生(地質汚染調査チーム)・笠原 豊・古野邦雄・加藤晶子・植田 隆・八旗明子
- 16:00 砒素汚染を完全浄化している東京都豊洲のマンション用地(その1)—砒素汚染地層洗浄効果の前実験—  
植井 久(内閣府認証NPO日本地質汚染審査機構)・田中 武
- 16:15 砒素汚染を完全浄化している東京都豊洲のマンション用地(その2)—砒素汚染地層単元の洗浄浄化—  
植井 久(内閣府認証NPO日本地質汚染審査機構)・田中 武
- 16:30 総合討論(30分)
- 法地質学
- 17:00 法地質学の現状と世界の動向  
杉田律子(科学警察研究所)
- 17:15 地質汚染の拡散問題と人工地層の埋立て跡地の管理について  
笠原 豊(千葉県地質環境研究室)・植田 隆・風岡 修・山本真理・古野邦雄・酒井 豊・加藤晶子・吉田 剛・植井 久
- 17:30 土壌汚染対策法における状態責任の主体と範囲  
高橋 洋(野田市環境部環境保全課)
- 17:45 総合討論(15分)

プログラムは一部変更することがあります。最新情報は地質汚染－医療地質－社会地質学会ホームページ <http://www.ispmug.org/> をご覧ください。  
過去の環境地質学シンポジウム論文集の目次内容や在庫状況もホームページで確認できます。